

1 地域水産業再生委員会

組織名	大谷地域水産業再生委員会
代表者名	会長 西村 林

再生委員会の 構成員	大谷漁業協同組合、須崎市、高知県水産振興部中央漁業指導所
オブザーバー	高知県水産振興部水産政策課

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	<p>地 域：須崎市（大谷地区）</p> <p>漁業の種類：養殖漁業（30）採介漁業（5）釣り漁業（10） 定置網漁業（2）</p> <p>※（ ）は経営体数 漁業者数47名（兼業含む）</p>
-----------------------	---

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

高知県中央部に位置する本地域は、リアス式の内湾であり波浪の影響を受けにくい静穏な湾でありながら、湾口部は広く海水交換が良いという条件を備えている。また、沖合いを黒潮の分流が流れるため、一年のほとんどの時期で非常に温暖な環境となっている。

▼地域の漁業

大谷漁業協同組合では、温暖な環境を生かしてマダイ、カンパチ、シマアジの養殖がおこなわれており、経営体数も地域で最も多い。また、沿岸・沖合釣り漁業、定置網漁業、刺し網漁業、採介漁業等も行われており、養殖との兼業が多い。近年は燃料費及び飼料費の高騰や魚価安により、漁業経営は非常に厳しい状況にある。

▼地域の課題

【マダイ養殖】

マダイ養殖においては、経費の多くを占める配合飼料の価格高騰と魚価低迷により、漁業経営が非常に厳しい状況にある。

マダイ養殖業者有志は、平成11年に「大谷マダイ養殖部会」を結成し、給餌の効率化や選別の徹底等による経営改善に取り組んでいる。平成26年度には高知県が定める「養殖協業体」にも認定された。

※養殖協業体：3経営体以上で構成されるグループで養殖業共同改善計画を作成し、それに取り組んでいくことで、県から認定される。

【カンパチ養殖】

カンパチ養殖においては、最近、魚価は高値で推移しており、ある程度の収益が望める状態であるが、相場の変動も大きく楽観はできない。そこで、カンパチ養殖業者有志は「大谷ネイリ養殖部会」（ネイリ：カンパチの地方名）を結成し、高品質カンパチを比較的高値の固定価格で販売する「極美勘八」ブランドを立ち上げ、漁業収入の向上と安定化につなげる取り組みを始めた。

また、カンパチ養殖ではハダムシの寄生による品質の劣化や斃死も問題となっており、ハダムシの対策として実施する淡水浴にかかる経費が経営を圧迫している。

※ハダムシの寄生と淡水浴：ハダムシはカンパチに多い寄生虫で、これが寄生すると体表に違和感が出るためにカンパチが網に肌をこすりつけ、肌荒れによる品質の劣化が著しくなる。さらに放置した場合には肌荒れした箇所から感染症が起り、斃死に至ることもある。カンパチの体表に寄生したハダムシを除去するため、カンパチを淡水中に5分程度漬ける「淡水浴」を行う。通常、月に1～2回の頻度で行われるが、真夏は淡水の溶存酸素量が低くなるために淡水浴できる時間が短くなるため頻度を多くする。この淡水浴には水代等の経費負担が大きいため、漁業経営上の課題にもなっている。

#### 【選別落ち魚】

マダイやカンパチの養殖では、様々な要因によりある程度の割合で片目落ちや色付きが悪い魚が含まれる。また、出荷の際には取引先がサイズを指定するが、指定のサイズでない魚が発生する。これらの魚が出荷群（出荷する魚のロット）に混ざることによって、出荷群全体の評価は下がってしまうので、上記2項目でもふれたように選別が行われる。これにより除去される、いわゆる選別落ち魚は、安価で取引されるために収益を悪化させている。

#### 【定置網漁獲物等の直販の取り組み】

当地区を含む須崎南地域の活性化を目的として、大谷漁協が直販所「楠木鮮魚一」を運営している。楠木鮮魚一では、定置網漁業、釣り漁業、養殖漁業、採介漁業の漁獲物を漁業者から直接仕入れ販売している。これにより、魚価の向上による漁業収入の増加、及び地域外からの顧客の獲得による地域への交流人口の増加にも寄与している。

#### 【漁場環境の悪化】

野見湾では、漁場環境の悪化に起因する赤潮被害や白点虫被害などが養殖漁業経営の不安定要素となっている。このため、野見湾の養殖業者で自主的に休餌日を設定し、漁場環境に与える負荷を軽減させる取り組みを行っている。

#### 【介類漁獲量の減少】

野見湾周辺では、長太郎貝（ヒオウギガイ）やちゃんばら貝（マガキガイ）といった貝類が生息しており、大谷漁協を含む野見湾周辺の5漁協の漁業者が採介漁業を行っている。しかしながら、漁業者以外も漁獲するために漁獲圧が高く、漁獲量が減少している。

### (2) その他の関連する現状等

#### ▼地域イベント

大谷地域が含まれる須崎市周辺では、「野見湾元気なお魚祭り」、「新子祭り」、「須崎お魚祭り」などいくつかの漁業を対象とした地域イベントが開催されており、地域内外を問わず客が来場し、地域水産物のPRに貢献している。

#### ▼地元関連企業

地元水産加工会社A社は、養殖マダイ、養殖カンパチ、カツオ、ウツボ等の加工を手掛ける水産加工会社であり、大谷マダイ養殖部会や大谷ネイリ養殖部会との関連が深い。特に、「極美勘八」の加工、販売を一手に引き受けている。

## 3 活性化の取組方針

### (1) 基本方針

#### ■漁業収入の向上

##### 【共同出荷による選別の精度を高めることによる評価の向上】

大谷マダイ養殖部会は、マダイの活魚出荷時のサイズや外形の選別精度を上げることで出荷群の評価を上げ、漁業収入の向上につなげる。

##### 【極美勘八の高品質化及び販路拡大】

大谷ネイリ養殖部会は、飼育方法を従来型から出荷前に栄養剤を添加する「極美勘八」型に徐々に置き換え、飼育魚全体に占める「極美勘八」の生産数を増加させる。また、栄養剤の添加方法の改良による「極美勘八」の高品質化にも取り組むことで、漁業収入の向上につなげる。

併せて、地元水産加工会社と連携し、「極美勘八」の一次加工品の開発にも取り組み、県外への販路の拡大にも努める。

##### 【選別落ち魚の加工による付加価値向上】

上記2つの取り組みを進める中で、片目落ちなどで選別により除去される、いわゆる選別落ち魚が発生する。これらの魚は非常に安価で取引されるため、漁業経営の悪化に少なからず影響している。

しかしながら、これらの魚は見た目の評価が悪いだけで、身質等には影響がない。そこで、地元水産加工会社でフィーレや切身等に加工処理することで、付加価値を付ける。

##### 【地産地消の推進】

大谷漁協に所属する、養殖協業体及び養殖業者は地元量販店等での加工品の直売や地域イベントへ積極的に参加、地元での消費量拡大を目指す。また、地域の児童とその保護者を対象に、魚食習慣を根付かせ、魚消費の底上げを図るため食育授業を開催する。

**【楠木鮮魚一を核として定置網漁獲物の高鮮度流通を実施】**

楠木鮮魚一では、定置網漁業、養殖漁業、釣り漁業及び採介漁業の漁獲物を販売し、地域への交流人口の増加、地域水産物の知名度の向上を目指す。

また、定置網で水揚げされた漁獲物（アジ）を施設内の活魚水槽で一時とりおき、これを神経メによる高鮮度処理を施して、宅配便で大都市圏の飲食店に配達する。このように、漁獲物を高値で安定して出荷することで、魚価の向上を図る。

**【漁場環境保全に関する取り組み】**

野見湾（大谷漁協、野見漁協）の養殖業者で休餌日（毎木、日曜日）を設定し、これを徹底、漁場環境に与える負荷軽減を図る。

また、白点虫の原因となる泥中のシストを減少させるため、底質改良剤の散布を行う。

※白点虫：マダイ、カンパチの鰓や体表に寄生する寄生虫で、野見湾では過去に大きな被害が発生している。魚体に寄生した白点虫は成長して魚体から離れ、海底の泥中でシストとして過ごし、再び仔虫となって水中に出現する。このとき1体のシストから数百体の仔虫が出現し、魚体に寄生することで被害が拡大する。現在、泥中の白点虫シストを減少させる底質改良剤が販売されている。

**【採介漁業の登録制度】**

・野見湾周辺では、長太郎貝（ヒオウギガイ）やちゃんばら貝（マガキガイ）といった貝類が生息しており、野見漁協を含む野見湾周辺の5漁協の漁業者が採介漁業を行っている。しかしながら、漁業者以外も漁獲するために漁獲圧が高く、漁獲量が減少している。そのため、採捕にかかる漁業者を登録制とし、漁獲圧の低減を図る。

**■漁業コストの削減**

**【セーフティーネット、漁業共済「積立プラス」への加入】**

漁業経営セーフティーネット構築支援事業、積立プラス等の漁業収入安定対策などを活用し、漁業経営の安定化を図る。

**【省燃油活動】**

漁業者は、省エネエンジンの導入、船底清掃の励行及び出漁時間を早めるなどの減速航行を行うことにより燃油消費量を削減する。

**【ハダムシ対策の効率化】**

カンパチ養殖では、寄生虫であるハダムシを体表から除去するために淡水浴を行っているが、夏場は使用する淡水の溶存酸素量が少なくなるために、除去に十分な時間とされる6分間以上、カンパチを淡水に漬けることができない。淡水に漬ける時間が短いとハダムシの除去が不十分となるため、淡水浴を月2回程度、行わざるを得ない状況である。この対策として、淡水中に酸素を供給し、淡水浴の時間を延長させる効果が期待されるファインバブル発生装置を用いて、夏場のハダムシ除去の効率を高めることで、淡水浴の総回数を削減する。

※ファインバブル発生装置：水中ポンプの先に取り付け、微細な気泡を水中に噴出する。気泡が小さくなることで、水と接する表面積が増え、溶存酸素を高める効果が高いとされる。

**(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置**

野見湾周辺の長太郎貝（ヒオウギガイ）やちゃんばら貝（マガキガイ）を対象とする採介漁業は、海区調整委員会指示により平成27年より周辺漁協組合員（大谷、野見、須崎釣、錦浦、須崎町の5漁協：30名）の登録制となったのでこれを遵守する。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成27年度）

以下の取組み内容は、取組みの進捗状況や得られた知見を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>○共同出荷による選別の精度を高めることによる評価の向上 マダイ出荷群のサイズや外形の選別精度を高めることで、出荷群全体の評価を上げて魚価の向上を図るため、大谷マダイ養殖部会はマダイ選別の指標となる目視比較サンプルを大谷マダイ養殖部会で作成する。</p> <p>※目視比較サンプル：マダイの重量ごとのシルエットや色目を表示した印刷物。実物大で作成し、魚のサイズ認識のための比較対象となる。</p> <p>○ブランドカンパチ「極美勘八」の販路拡大 「極美勘八」の生産マニュアルを作成し、これに基づく飼育を開始する。 養殖業者ごとに異なる飼育密度を統一するため、飼育密度の高い養殖業者2名がそれぞれ2基の小割を増設する。また、全ての養殖業者において、栄養剤の投与方法改良により「極美勘八」の高品質化を図る。 販売においては、地元水産加工会社を通じて、取引のある奈良県の量販店に対して出荷する。さらに、関東圏の商談会に参加し、業務筋を中心とした販路拡大を試みる。</p> <p>○選別落ち魚の加工による付加価値向上 これまで出荷魚の中に混じり、出荷魚全体の価値を下げていた、マダイやカンパチの選別落ち魚を、地元水産加工会社で加工することにより付加価値を付け、同社を通じてこれまでマダイ加工品の販売実績のある関東方面の業務筋に販売する。</p> <p>○地産地消の推進 大谷漁協に所属する養殖協業体及び養殖業者は、地元量販店等での加工品の直売や野見湾元気なお魚祭り等の地域イベントへの積極的な参加とPRにより、地元での消費量拡大を目指す。 また、地域の児童とその保護者を対象に、魚食習慣を根付かせ、魚消費の底上げを図るため地元生協とともに食育授業を開催（年1回程度）する。食育授業では、養殖現場での餌やり体験や、養殖魚の料理教室等を実施する。</p> <p>○楠木鮮魚一を核として定置網漁獲物の高鮮度流通を実施 地元定置で水揚げされたアジ等の漁獲物を施設内の活魚水槽で一時とりおき、これを神経メによる高鮮度処理を施して、宅配便で大都市圏の「高知家の魚応援の店」に配達する取組を開始。</p> <p>※高知家の魚応援の店：高知県が推進する、高知県の食材を使用した料理を提供する飲食店等と産地をマッチングする制度に登録した店舗のこと。平成27年度現在、全国で523店舗が登録している。</p> <p>○漁場環境保全に関する取組み 野見湾（大谷漁協、野見漁協）の養殖業者で休餌日（毎木、日曜日）を設定し、漁場環境に与える負荷軽減を図る。</p> <p>○採介漁業の登録制度 野見湾周辺の長太郎貝（ヒオウギガイ）やちゃんばら貝（マガキガイ）を対象とする採介漁業は、海区調整委員会指示により平成27年より周辺漁協組合員（大谷、野見、須崎釣、錦浦、須崎町の5漁協：30名）の登録制となり、漁獲圧の低減に取り組み始める。</p> <p>これらの取組みにより漁業収入を基準値より0.1%向上させる。</p>
--------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>■漁業コストの削減</p> <p>○セーフティーネット、漁業共済「積立プラス」への加入      漁業経営セーフティーネット構築支援事業、積立プラス等の漁業収入安定対策などを活用し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>○省燃油活動      漁業者は、省エネエンジンの導入、船底清掃の励行及び出漁時間を早めるなどの減速航行を行うことにより燃油消費量を削減する。</p> <p>○ハダムシ対策の効率化      カンパチ養殖では、寄生虫であるハダムシを体表から除去するために淡水浴を行っているが、夏場は使用する淡水の溶存酸素量が少なくなるために、除去に十分な時間とされる6分間以上、カンパチを淡水に漬けることができない。淡水に漬ける時間が短いとハダムシの除去が不十分となり、淡水浴を複数回行わなければならないため効率が悪いという課題がある。      この対策として、淡水中に酸素を供給し、淡水浴の時間を延長させる効果が期待されるファインバブルがある。しかし、ファインバブル発生装置を操作し、期待する効果を得るためには一定のノウハウの獲得が必要である。      そこで、ファインバブル発生装置の夏場における淡水浴時間6分以上への延長や、回数減少等の効果を検証するため、大谷ネイリ養殖部会を代表するメンバーが同装置を試験的に導入する。</p> <p>これらの取組みにより、漁業コストを基準値より0.1%削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営SN構築事業      省燃油活動推進事業      養殖業協業化促進事業</p>

2年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>○共同出荷による選別の精度を高めることによる評価の向上      前年度に作成した目視比較サンプルを基準に、サイズ、外形の選別精度を高めることで、出荷魚の評価の向上を図る取り組みを継続する。</p> <p>○ブランドカンパチ「極美勘八」の販路拡大      栄養剤の投与方法改良による「極美勘八」の高品質化を継続し、併せて生産マニュアルの改良を行う。      前年に引き続き、地元水産加工会社を通じて奈良県の量販店へ出荷するとともに、商談会等への参加により関東圏の業務筋を中心とした販路拡大を継続する。      また、奈良県の量販店に対しては「極美勘八」の刺身用短冊等の加工品も販売を開始する。</p> <p>○選別落ち魚の加工による付加価値向上      選別落ち魚を地元水産加工会社で加工することにより付加価値を高め、関東方面の業務筋に販売する取り組みを継続。</p> <p>○地産地消の推進      大谷漁協に所属する、養殖協業体及び養殖業者は地元量販店等での加工品の直売や野見湾元気なお魚祭り等の地域イベントへの積極的な参加とPRにより、地元での消費量拡大を目指す。      また、地域の児童とその保護者を対象に、魚食習慣を根付かせ、魚消費の底上げを図るため地元生協とともに食育授業を開催（年1回程度）する。食育授業では、養殖現場での餌やり体験や、養殖魚の料理教室等を実施する。</p> <p>○楠木鮮魚一を核として定置網漁獲物の高鮮度流通を実施      地元定置で水揚げされたアジ等の漁獲物の高鮮度流通に関して、各地の高知家の魚応援の店への出荷を継続し、更に新たな取引先を獲得していくことで、取扱量の増加につなげる。</p> <p>○漁場環境保全に関する取り組み      野見湾（大谷漁協、野見漁協）の養殖業者で休餌日（毎木、日曜日）を設定し、これを徹底、漁場環境に与える負荷軽減を図る取り組みを継続。      白点虫被害対策のために、底泥中の白点虫シストを減少させる底質改良剤を各漁場で散布する。</p>
---------------------	--

	<p>○採貝漁業の登録制度 野見湾周辺の長太郎貝（ヒオウギガイ）やちゃんばら貝（マガキガイ）について採捕にかかる漁業者を登録制とし、漁獲圧の低減を継続。</p> <p>これらの取り組みにより漁業収入を基準値より0.2%向上させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>■漁業コストの削減</p> <p>○セーフティーネット、漁業共済「積立プラス」への加入 漁業経営セーフティーネット構築支援事業、積立プラス等の漁業収入安定対策などを活用し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>○省燃油活動 漁業者は、省エネエンジンの導入、船底清掃の励行及び出漁時間を早めるなどの減速航行を行うことにより燃油消費量を削減する。</p> <p>○ハダムシ対策の効率化 前年度に試験導入したファインバブル発生装置の効果として、淡水浴の時間や回数について検証と大谷ネイリ養殖部会メンバーでの情報共有を図る。夏場においても、淡水浴を6分以上行え、回数の減少が見込まれれば、使用マニュアルの作成にも取り組む。</p> <p>これらの取組みにより、漁業コストを基準値より0.2%削減する。</p>
活用する支援措置等	漁業経営SN構築事業

### 3年目（平成29年度）

漁業収入向上のための取組	<p>○共同出荷による選別の精度を高めることによる評価の向上 目視比較サンプルを基準に、サイズ、外形の選別精度を高めることで、出荷魚の評価の向上を図る取り組みを継続する。</p> <p>○ブランドカンパチ「極美勘八」の販路拡大 「極美勘八」の生産数を増やすことで漁業収入を増加させるため、生産マニュアルに則って従来型の飼育を行っている小割においても極美勘八の生産に取り組む。併せて、「極美勘八」の販路拡大を奈良県のほか関東圏の業務筋でも継続。販路拡大のために、取引先のニーズに合わせて加工商品のバリエーションと取り扱い量を増加させる。</p> <p>○選別落ち魚の加工による付加価値向上 選別落ち魚を地元水産加工会社で加工することにより付加価値を高め、関東方面の業務筋に販売する取り組みを継続。</p> <p>○地産地消の推進 大谷漁協に所属する、養殖協業体及び養殖業者は地元量販店等での加工品の直売や野見湾元気なお魚祭り等の地域イベントへの積極的な参加とPRにより、地元での消費量拡大を目指す。 また、地域の児童とその保護者を対象に、魚食習慣を根付かせ、魚消費の底上げを図るため地元生協とともに食育授業を開催（年1回程度）する。食育授業では、養殖現場での餌やり体験や、養殖魚の料理教室等を実施する。</p> <p>○楠木鮮魚一を核として定置網漁獲物の高鮮度流通を実施 地元定置で水揚げされたアジ等の漁獲物の高鮮度流通に関して、各地の高知家の魚応援の店への出荷を継続し、更に新たな取引先を獲得していくことで、取扱量の増加につなげる。</p> <p>○漁場環境保全に関する取り組み 野見湾（大谷漁協、野見漁協）の養殖業者で休餌日（毎木、日曜日）を設定し、これを徹底、漁場環境に与える負荷軽減を図る取り組みを継続。 白点虫被害対策を目的として実施した、底質改良剤散布の効果把握のために白点虫の寄生状況を水産試験場の協力のもとモニタリングする。</p> <p>○採貝漁業の登録制度 野見湾周辺の長太郎貝（ヒオウギガイ）やちゃんばら貝（マガキガイ）について採捕にかかる漁業者を登録制とし、漁獲圧の低減を継続。</p> <p>これらの取組みにより、基準値より0.3%の収入向上を目指す。</p>
--------------	--

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>■漁業コストの削減</p> <p>○セーフティーネット、漁業共済「積立プラス」への加入      漁業経営セーフティーネット構築支援事業、積立プラス等の漁業収入安定対策などを活用し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>○省燃油活動      漁業者は、省エネエンジンの導入、船底清掃の励行及び出漁時間を早めるなどの減速航行を行うことにより燃油消費量を削減する。</p> <p>○ハダムシ対策の効率化      養殖協業体に参画する養殖業者それぞれがファインバブル発生装置を順次導入する。これにより夏場においても淡水浴の1回の時間を6分以上に伸ばすことで効率性を高め、回数を月2回から1回程度にまで減少させ、経費の削減を図る。また、前年度に作成した使用マニュアルについても適宜更新を行い、協業体メンバーで情報共有を図る。</p> <p>これらの取組みにより、漁業コストを基準値より0.3%削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営SN構築事業</p>

4年目（平成30年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>○共同出荷による選別の精度を高めることによる評価の向上      目視比較サンプルを基準に、サイズ、外形の選別精度を高めることで、評価の向上を図る取り組みを継続。</p> <p>○ブランドカンパチ「極美勘八」の販路拡大      前年に引き続き、「極美勘八」の生産数を増やすことで漁業収入を増加させるため、生産マニュアルに則って従来型の飼育を行っている小割においても極美勘八の生産に取り組む。併せて、「極美勘八」の販路拡大を奈良県のほか関東圏の業務筋でも継続。販路拡大のために、取引先のニーズに合わせて加工商品のバリエーションと取り扱い量を増加させる。</p> <p>○選別落ち魚の加工による付加価値向上      選別落ち魚を地元水産加工会社で加工することにより付加価値を高め、関東方面の業務筋に販売する取り組みを継続。</p> <p>○地産地消の推進      大谷漁協に所属する、養殖協業体及び養殖業者は地元量販店等での加工品の直売や野見湾元気なお魚祭り等の地域イベントへの積極的な参加とPRにより、地元での消費量拡大を目指す。      また、地域の児童とその保護者を対象に、魚食習慣を根付かせ、魚消費の底上げを図るため地元生協とともに食育授業を開催（年1回程度）する。食育授業では、養殖現場での餌やり体験や、養殖魚の料理教室等を実施する。</p> <p>○楠木鮮魚一を核として定置網漁獲物の高鮮度流通を実施      地元定置で水揚げされたアジ等の漁獲物の高鮮度流通に関して、各地の高知家の魚応援の店への出荷を継続し、更に新たな取引先を獲得していくことで、取扱量の増加につなげる。</p> <p>○漁場環境保全に関する取り組み      野見湾（大谷漁協、野見漁協）の養殖業者で休餌日（毎木、日曜日）を設定し、これを徹底、漁場環境に与える負荷軽減を図る取り組みを継続。      白点虫のモニタリングを継続し、白点虫の寄生率が高まったなど、底質改良剤の効果が減少したと見られたときは、再び各漁場で底質改良剤を散布する。</p> <p>○採貝漁業の登録制度      野見湾周辺の長太郎貝（ヒオウギガイ）やちゃんばら貝（マガキガイ）について採捕にかかる漁業者を登録制とし、漁獲圧の低減を継続。</p> <p>これらの取組みにより、基準値より0.5%の収入向上を目指す。</p>
---------------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>■漁業コストの削減</p> <p>○セーフティーネット、漁業共済「積立プラス」への加入      漁業経営セーフティーネット構築支援事業、積立プラス等の漁業収入安定対策などを活用し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>○省燃油活動      漁業者は、省エネエンジンの導入、船底清掃の励行及び出漁時間を早めるなどの減速航行を行うことにより燃油消費量を削減する。</p> <p>○ハダムシ対策の効率化      ファインバブル発生装置の効果や使用マニュアルの普及・情報共有を図り、夏場においても淡水浴の1回の時間を6分以上に伸ばすことで効率性を高め、回数を月2回から1回程度にまで減少させ、経費の削減を図るとともに、養殖協業体以外のメンバーにも順次導入を推進する。</p> <p>これらの取組みにより、漁業コストを基準値より0.4%削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営SN構築事業</p>

5年目（平成31年度）

取り組みの最終年度であり、前年度に引き続き行うが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取り組み状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>○共同出荷による選別の精度を高めることによる評価の向上      目視比較サンプルを基準に、サイズ、外形の選別精度を高めることで、評価の向上を図る取り組みを継続。</p> <p>○ブランドカンパチ「極美勘八」の販路拡大      引き続き、「極美勘八」の生産数を増やすことで漁業収入を増加させるため、生産マニュアルに則って従来型の飼育を行っている小割においても極美勘八の生産に取り組む。併せて、「極美勘八」の販路拡大を奈良県のほか関東圏の業務筋でも継続。販路拡大のために、取引先のニーズに合わせて加工商品のバリエーションと取り扱い量を増加させる。</p> <p>○選別落ち魚の加工による付加価値向上      選別落ち魚を地元水産加工会社で加工することにより付加価値を高め、関東方面の業務筋に販売する取り組みを継続。</p> <p>○地産地消の推進      大谷漁協に所属する、養殖協業体及び養殖業者は地元量販店等での加工品の直売や野見湾元気なお魚祭り等の地域イベントへの積極的な参加とPRにより、地元での消費量拡大を目指す。      また、地域の児童とその保護者を対象に、魚食習慣を根付かせ、魚消費の底上げを図るため地元生協とともに食育授業を開催（年1回程度）する。食育授業では、養殖現場での餌やり体験や、養殖魚の料理教室等を実施する。</p> <p>○楠木鮮魚一を核として定置網漁獲物の高鮮度流通を実施      地元定置で水揚げされたアジ等の漁獲物の高鮮度流通に関して、各地の高知家の魚応援の店への出荷を継続し、更に新たな取引先を獲得していくことで、取扱量の増加につなげる。</p> <p>○漁場環境保全に関する取り組み      野見湾（大谷漁協、野見漁協）の養殖業者で休餌日（毎木、日曜日）を設定し、これを徹底、漁場環境に与える負荷軽減を図る取り組みを継続。      白点虫のモニタリングを継続し、白点虫の寄生率が高まったなど、底質改良剤の効果が減少したと見られたときは、再び各漁場で底質改良剤を散布する。</p> <p>○採貝漁業の登録制度      野見湾周辺の長太郎貝（ヒオウギガイ）やちゃんばら貝（マガキガイ）について採捕にかかる漁業者を登録制とし、漁獲圧の低減を継続。</p> <p>これらの取組みにより、基準値より0.7%の収入向上を目指す。</p>
---------------------	--



漁業コスト削減のための取組	<p>■漁業コストの削減</p> <p>○セーフティーネット、漁業共済「積立プラス」への加入          漁業経営セーフティーネット構築支援事業、積立プラス等の漁業収入安定対策などを活用し、漁業経営の安定化を図る。</p> <p>○省燃油活動          漁業者は、省エネエンジンの導入、船底清掃の励行及び出漁時間を早めるなどの減速航行を行うことにより燃油消費量を削減する。</p> <p>○ハダムシ対策の効率化          ファインバブル発生装置の効果や使用マニュアルの普及・情報共有を図り、夏場においても淡水浴の1回の時間を6分以上に伸ばすことで効率性を高め、回数を月2回から1回程度にまで減少させ、経費の削減を図るとともに、養殖協業体以外のメンバーにも順次導入を推進する。</p> <p>これらの取組みにより、漁業コストを基準値より0.5%削減する。</p>
活用する支援措置等	漁業経営SN構築事業

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

白点虫のモニタリングでは、県水産試験場の協力を仰ぐ。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成 年平均 : 漁業所得 千円
	目標年	平成 年 : 漁業所得 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築支援事業【国】	燃油価格高騰時に補填を受け漁業経営の安定を図る。
省燃油活動推進事業【国】	燃油消費量そのものを根本的に削減し、漁業経営の安定を図る。
高知県養殖業協業化促進事業【県】	養殖施設の増強等により、生産高の増加や養殖魚の品質向上を図る。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。